

# 交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2014年 2月 13日

No.13

## 14春闘スタート！新賃金要求を申し入れる！

- 申第8号
- ・ベア3500円の賃上げ（55歳以上も同様）
  - ・55歳以上の賃金ダウンの改善
  - ・契約・臨時社員、嘱託及び嘱託社員の基本給改善
  - ・嘱託社員の「調整手当」の改善
  - ・B単価を1時間当たり127/100に引き上げ
- 申第9号
- ・職場環境や制度の改善などの諸要求実現

中央本部は本日10時より、「2014年度新賃金要求の申し入れ（申第8号）」及び「諸要求の申し入れ（申第9号）」を行いました。申し入れにあたり中央本部は①下期に入り、様々な営業施策を打ち出した結果、11月以降営業成績が計画を上回っている状況にある。②一方で消費税の増税や公共料金の値上げなどによって、組合員の可処分所得は減少する一方であり、極めて厳しい状況に置かれている。③先日の大雪の際に長時間の抑止が発生するなど、輸送障害への対応が未だ不十分である。根本的な対策が求められている。④社長はじめ経営陣の「潮目が変わった」との発言もあるように日本経済は回復傾向であるが、様々な施策の担い手は職場で奮闘している組合員であり、その苦勞に應える責任がある。信義誠実の原則を基に、私たちの要求に対し誠意ある回答を求める。ことを主張しました。

それに対して会社は、①下期には様々な営業施策を講じてきた。景気の回復傾向の中で増税前の駆け込み需要もあり11月以降、計画を達成している。②2月についても大雪による減収が大きいものの、2月12日現在計画を上回る実績となっている。③来年度より始まる新中期経営計画は現在策定中であるが、増税の反動が来るなかでの計画となる。反動が最小限になるように取り組むが、電力費や線路使用料など経費増が見込まれている。④会社として平成28年度に鉄道事業部門を黒字化するという目標は変えていない。そのために収入・経費の両面から考える必要がある。現状としては厳しいものがあるが、回答指定日まで真摯に議論していきたい。と現時点の考え方を示しました。

会社の考え方に対して中央本部は、①黒字決算を計画している以上、14年間ベアゼロの中で様々な努力をしてきた組合員の苦勞に会社は應える義務がある。私たちは期末手当交渉の際の悔しさを忘れない。②鉄道事業部門の黒字化自体を否定はしないが、黒字化の前提は収入拡大であり、安易に経費面の議論にはならない。将来のJR貨物をどうしていくのか、会社の姿勢が問われる。とただしました。

組合員の皆さん。会社は平成25年度決算及び新中期経営計画を見据え、人件費を中心に徹底した経費削減で乗り切ろうとしていることは明らかです。14春闘をコスト削減のみに突き進む経営陣の姿勢をただし、賃金引上げと安全で働きやすい職場環境の実現に向けて、一人一人が職場から14春闘の勝利に向けて邁進しようではありませんか。中央本部もその最先頭に立って奮闘します。

以上

次回、第2回交渉は2月21日（金）です。